



平成 18 年 (2006 年) 1 月 30 日 第 17 号

待つこと



昨夏、地域のお祭りに参加したときのことで。おばあさんと幼稚園児ぐらいのお孫さん、お母さんがある模擬店の前で話をしていました。その模擬店は、人気があり、順番待ちの方がたくさん並んでいました。おばあさんが列に並び、待ち時間に子どもとお母さんは別の模擬店でゲームをしている様子で、何度か「まだ？」と様子を伺いに来ていました。おばあさんとお母さんにはせっきやくのお祭りだから、子どもにいろんなことをさせてあげたいという願いがあったのでしょうか。

しかし、このような大人の心づかいが子どもから「待つ」という経験の機会を奪っているように思えます。いくつかのゲームの中からあれかこれかと思ひ迷い、その上で自分が選び、順番を待つ。他の人と同じように待ったからこそ、自分の番がどれだけ大切なものになるのか、幼いころに経験して欲しい場面が一つ消えてしまった、とそばで見ていると思いました。

「近頃の子どもは我慢を知らない」「〇〇ができない」と言われます。そのように仕向けてきたのは誰なのか、「待つこと」が一番できないのは誰なのか自問していた頃、ある新聞のコラムが目にとまりました。谷川俊太郎さんの詩「あわてなさんな」が掲載されていたのです。この詩の父母のように、自分自身では気付かぬうちに、若い頃の思いを忘れて、子どものために良かれとの思いから、あれこれ指図をして来たのではなかったかと振り返ることができました。

子どもたちをこの息子のような選択のできる人に育てたいと願い、彼ら

に様々な「種子」を蒔くこと、どこまでも羽ばたくことのできる広い「空」を準備することが、今、大人に求められていることだと思っています。
(鈴木)

あわてなさんな

詩・谷川俊太郎

花をあげようと父親は云う
種子が欲しいんだと息子は呟く

翼をあげるわと母親は云う
空が要るんだと息子は目を伏せる

道を覚えろと父親が云う
地図は要らないと息子がいなす

夢を見ないでと母親が云う
目をさませよと息子がかみつく

不幸にしないでと母親は泣く
どうする気だと父親が叫ぶ

あわてなさんなと息子は笑う
父親の若い頃そっくりの笑顔で

東部ブロック 西丘小学校 11月8日(火)

【授業】1年国語 『おとうとねずみちろ』 【授業者】岡森真弓教諭

【取り組みから】低学年では音読を中心に取り組んでいます。家庭とも連携して、音読カードをいろいろ工夫し、声に出して本を読むことを大事にしています。授業の中では必ず声を出す機会をつくっています。また今回、授業後自己評価させる「にこにこカード」に取り組みました。授業にどのように取り組んだのかを振り返らせ、がんばった時は「にこにこカード」をつけます。反省点は、読み取らせたい内容が多く、最後の方でゆっくり待つことができず、子どもを引っ張ってしまったように思います。最後に、一人ひとりが学習したことを生かして、工夫して音読して欲しかったのですが、明確に読みに表せていなかったと思います。

【指導講師(住田勝 大阪教育大学助教授)から】今日の授業は子どもたちにとって、とても楽しかったと思います。1年生なりに音読を鍛える授業で、且つ読解の授業としても成立していたことを評価しなければならないと思います。低学年での音読の授業では、読解とは別といったものが多いが、低学年もここまでできるのかということを示してもらったと思います。今日の授業では1年生にしてこの領域まで来ているということだと思います。この時期の子どもたちにとっては、音読は身体表現であるということです。ちろの気持ちで…となると、手はどうなるかな、〇〇はどうなっているかな、と身体表現を意識的に取り入れることも良かったのではないかと考えます。

南部ブロック せんなり幼稚園 12月5日(月)

【授業】5才児・4才児 『製作あそび』 【授業者】全教員

【取り組みから】本園の教育目標は、「すこやかな体と豊かな心を持つ子ども」、そして「生きる力の基礎を培う」としている。

そして、「生き生きとして、生きる力をもつ子ども」、「自ら考えてやりぬこうとする子ども」、「温かい心、思いやりのある子ども」、「豊かに感じる心をもつ子ども」、「命を大切にする子ども」、「友達とともに仲良く遊ぶ子ども」を目指している。今年度は、「人と豊かにかかわり、共に育ち合う子どもをめざして」を研究主題とした。そこで以前からの保育所との交流を基礎として、保育所、千成小、保護者や地域の大人との交流等に取り組んできた。さらに自然を大切にする気持ちも育むために「森」をテーマに選んだ。

【指導講師(谷田瑛子 元豊中市立さかえ幼稚園長)から】今日の資料は、経過や保育方法等説明もあったが、保育実践の取り組みや、研修方法、さらに指導計画も期別から月案・週案・日案・年齢別とすべて出ており、非常に分かりやすい。小学校1年生の指導案も提示していただき、幼小の連携の様子を伺い知ることができた。幼小連携をもっと深めていくためには、やはり小学校側に必要性を訴えて、できるだけ時間を作って幼稚園に足を運んでもらい、保育を見てもらうことが大切である。

さらに幼稚園教育の理念と方法の効果が小学校の先生に理解されるようにするためには、幼稚園の先生がデータを作ることが必要だと思う。

ブロック交流

本年度も、ブロック交流研修(合計130人を越す教職員の取り組みの公開と研究協議幼稚園・小学校・中学校それぞれがない研究協議を実施することを目指す)な接続と連携を図ることを目標として、ここに、公開していただき協議の概略を掲載いたします。公開の皆さんに感謝するとともに、今いや魅力ある授業作りを交流して

北部ブロック 第十一中学校 11月17日(木)

【授業】1年英語 Unit7『アメリカの学校から』 【授業者】芝田幸治教諭

【取り組みから】クラスは音読や発話において意欲的・積極的であるので、そこを中心に授業を実施しています。これからは自分の気持ちを考える活動や、落ち着いて書くことも実施していきたい。2学期に入り自己紹介スピーチをみんなの前で発表する活動を行いました。しかし、まだそこから発展させることはできていません。もっと音声を使つてのコミュニケーションの力を伸ばしてあげたい。本来予定していた指導内容は1つ先のものでした。板書をノートに書くことは前回のうちにもうできています。子どもたちに授業への参加の姿勢について指導をしたので、十分内容に入ることができず、前回の指導では「他の人の発表を聞くことを一生懸命やろう。そして発表する側も内容や文法をキッチリとやろう。そうでないと英語は言葉なので、意味も気持ちも伝わらない。」と話をしました。準備の段階ではもう少し新出文型のスポット練習ができると思っていましたが、現実は一杯でした。

【指導講師(新保喜和 枚方市立長尾中学校教諭)から】今日の授業を見せてい

だくにあたって、見ようと思ったことが三つあります。一つ目の授業規律

についてですが、もう少し厳しくしてもいいのではないかと思いま

した。二つ目のインタラクティブの部分ですが、これは実に素晴ら

しいなあと思いました。最後の目標の部分ですが、達成するた

めにはアクティビティを増やすことがポイントだったかと思

います。

中部ブロック 緑地小学校 9月8日(木)

【授業】6年理科 『水よう液の性質』

【授業者】中川万幸教諭

【取り組みから】理科離れがずいぶん言われている昨今、少し

でも理科が好きになる子が増えてくれたらと思い、毎時間、実験

や観察を入れるように心がけている。今日も、子どもたちをどうやっ

て楽しく盛り上げようかと思いながら授業に臨んだ。そのためには日頃の準

備が大変である。しかし、子ども達が喜んでくれる姿を見ると、また次も頑張ろうと

いう意欲がわいてくる。とにかく全員に実験をさせたいと考えている。「どうしたら全員が参加できる

か。」「そのためにはどのように準備すればいいのか。」「子どもたちは今、何が嬉しくて、何が嫌なのか。」

など、色々探りながら、教材研究に取り組んでいる。

【指導講師(宮本憲武 大阪府教育センター指導主事)から】

学びの成立とは、子どもが楽しさや喜びを感じながら、意欲を

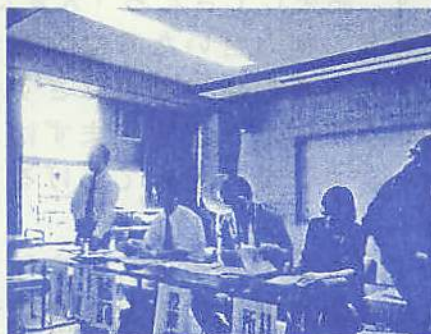
持って活動することにより、知識・技能、思考力・判断力、表

現力を習得し、その授業を通して、子どもが変容していくこと

である。つまり、次の三つのことが重要である。一つ目が「楽

しさを喜び」。二つ目は「意欲」。三つ目は「知識・技能、思考

力・判断力、表現力」の習得。



こころの危機管理

～もし、子どもが事件や事故にまきこまれたら～

昨年は、子どもたちが犯罪被害に遭う、つらい事件や事故・災害が多くありました。現在、学校や保護者、地域が一体となって子どもたちの安全確保に向け、様々な取り組みが行われています。子どもたちが安心して過ごせる日々の生活や豊かな心の成長を望むばかりです。

しかし、いつ・どんなときに身近な子どもたちが被害等に遭うのか、または、そのような場面を目撃するのかわかりません。その当事者や目撃者となった子どもは、こころに大きなショックを受けることとなります。

万が一に備え、子どもが事件や事故にまきこまれたとき、周囲の大人たちが知っておくと望ましい基本的なことを下記にまとめました。

大変な事故や事件などの後

◆ 子どもたちに起こる症状

- ・ 落ち着きがなくなる。イライラしたり、怒りっぽくなったりする。
 - ・ ぼうっとする。やる気が出ない。何も手につかない。
 - ・ 赤ちゃん返りをする。ベタベタして甘えてくる。
 - ・ こわい夢を見る。おねしょをする。眠れない。
 - ・ 被害体験を遊びの中で再演する。
 - ・ からだの不調を訴える。 等々
- (一見元気そうに見えても、しばらくしてから現れる場合もある)

◆ 周囲の大人たちが、気をつけること

- ・ 今まで通りのふだんの生活(子どもの安心のもと)を大切にする。
 - ・ 症状があらわれても、あわてないで落ち着いて接する。
- (大変な体験をしたのだから、症状に現れても正常な反応である)
- ・ 無理に話を聞き出そうとしない。

子どもの状態は、そのままが子どもからのメッセージです。話をしてきたら「大変だったね。」と聴いてあげる、何も言いたくないときはそっとしてあげる、からだの痛いときはさすってあげる、それが心のケアになります。まずは、子どもからのメッセージを、受けとめてあげることが大切です。

なお、子どものこころのケアを行うにあたり、症状が長引く場合等は、安易に判断せず、専門機関へ相談してください。

(大屋)

